



小島友実の あの馬の STORY

ハラペーニヨペー

馬房では大人しいハラペーニヨペー。でも手入れをされるのは大嫌い!

時々、初タートや初芝などの条件替わりで大穴を開ける馬がいますよね。加用正厩舎に所属するハラペーニヨペーもそんな馬の1頭。デビューから4戦目、初めてタートを走った去年6月の阪神戦で10番人気という人気を覆し、見事1着！嬉しい初勝利をマークしました。

「デビュー前の札幌競馬場の芝コースでの動きが良かったし、母のレットナリベッパが富士Sなど、芝の重賞を2勝しているという血統背景からも合っているという事で、芝でデビューしました。調教の動きも良くて期待したんだけど、結果は10着。その後、3戦目まで芝を走りましたが2桁続き。この馬には芝は合いませんでしたね」

当時の事をこう語る加用調教師。更に2歳時は体質がビロコッしない背景も影響していたと振り返ります。

「2歳の頃はソ工が出たりして体質が弱い所もありましたからね。放牧を狭みながら立て直し、少しずつ状態が良くなってきたので、1度タートを試してみようかなと思って」

この条件替わりで見事に結果が出た事は先述の通り。そのレースぶりには加用師も驚いたとつづきます。

「タートでの調教も苦にしない感じだったし、前々でレースが出来れば結果が出るかなと思っていました。でも正直、半信半疑な部分もありましたね。」

そうしたら、スムーズに逃げて快勝。これには驚きましたね」

そして、1着きつかけを掴んだハラペーニヨペーは昇級してからも、その能力を順調に発揮していきます。

「500万クラス、1000万クラスを共に2戦目で勝って、1600万クラスに上がった播磨Sで2着。スムーズに先行して結果を出してくれていますね」
最近の充実の理由を師はどう見ているのでしょうか。

「一番はタートに適性があったという事でしょね。それと、スピードがあり前々で競馬が出来て、最後まで疲れないのが強みです。2歳の頃は体質面で弱い所がありましたが、牧場と連携して放牧を狭みながらケアをしてきて、間隔を開けながら使ってきた事で体調面はもう全然精神面も安定。それで結果が出て来たというのがおもしろいです。馬房でも落ち着いていますよ」

そこで次は馬房へ会いに行きました。お話を伺ったのはハラペーニヨペーを担当する大反田志麻務員です。

「馬房では無駄な事をしないで、落ち着いていますよ。でもパドックでは少し入れ込みたいですね。大抵、2人曳きですから、それとタートにマンモンの調教やレースでは大丈夫ですけど、競馬場へ行くと、地下道やパドックで左へ左へ行く感じが苦手です。だからパドックでも内側へ入りこもって欲しいです」

んどうよ」

実際に馬房で会うハラペーニヨペーは静かに佇む感じで、落ち着いていました。しかし、ある事をされるのが大嫌いなんです。

「ハラペーニヨペーはね、手入れされるのが嫌いな。馬の後ろへ行くこと回し蹴りが飛んでくるから、尻尾がなかなかかかせない。だから、レースの時は尻尾にチップがついたままで行く事もありませんよ(苦笑)」

という事で、ハラペーニヨペーを所有する愛馬会会員の皆さん。パドックに現れたハラペーニヨペーの尻尾にチップがついていても大目に見てあげて下さいね(笑)。

そんなハラペーニヨペーは次走に向けての調整が続いています。今後の可能性について加用師に伺いました。「このまま順調ならは4月3日、阪神の鳴門Sに向かう予定です。最近は脚元の不安も全くないですし、精神面も安定。無事に成長していけば、まだまだ上を目指せる器だと思いますよ。私も楽しみにしています」

ハラペーニヨペーの意味は、辛みの強い青唐辛子。馬房で回し蹴りを繰り返す気の強さは「回し蹴りした強い辛さを連想させますよね(笑)。タートに変わってから殆ど馬券に絡んでいる堅実派。今後も注目していきたいです。」

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜 19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。